

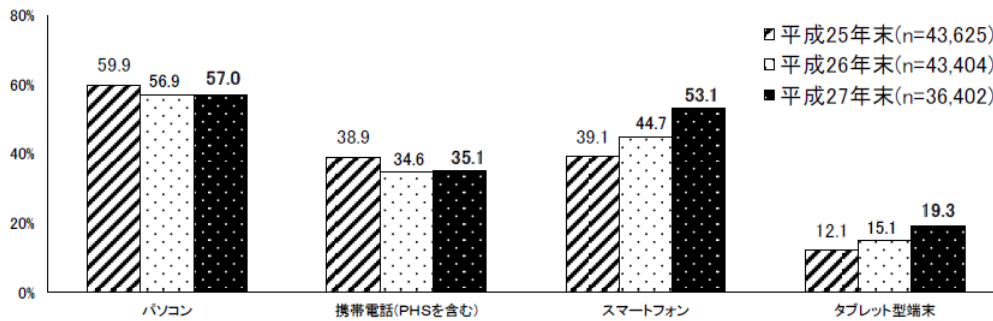
特集

学生のスマートフォン活用事例

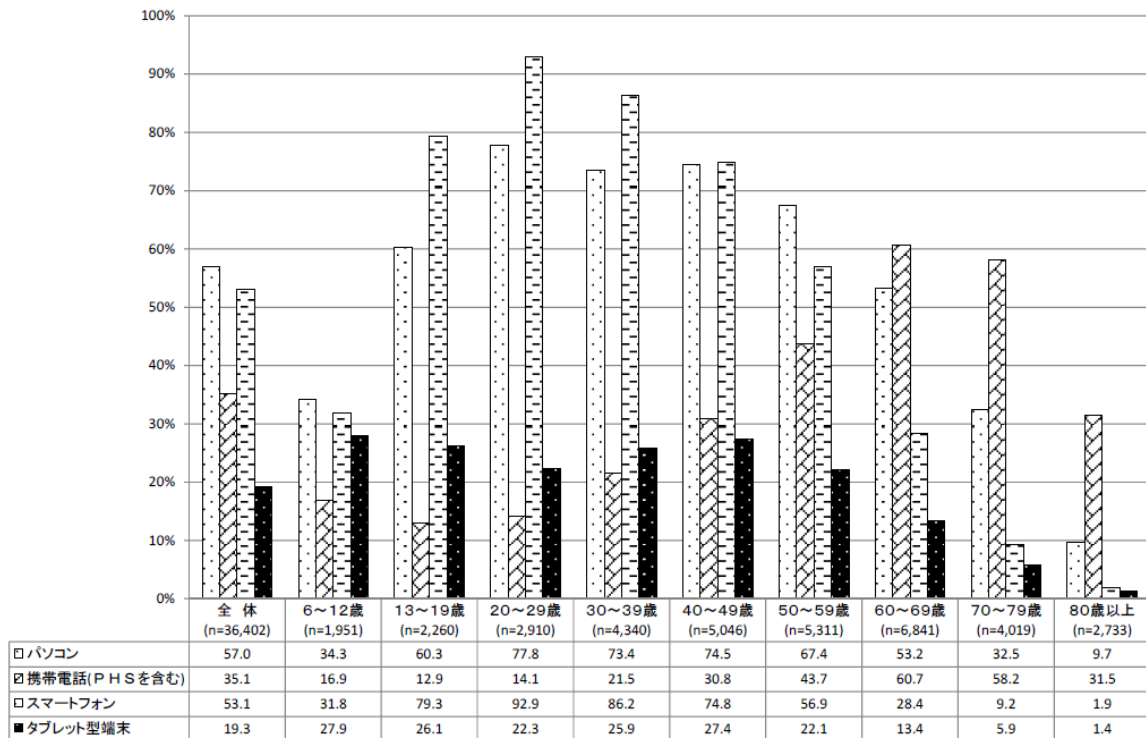
教育学部3年 新谷 紀明、飯山 智恵美、佐藤 成悟

1. はじめに

現在の国内における個人の情報通信機器の保有状況を見てみる（総務省『平成27年通信利用動向調査』）。その状況は、パソコンの保有者の割合が57.0%と最も高く、次いでスマートフォン（53.1%）携帯電話（35.1%）となっている。さらに詳しく見てみると、パソコンの保有者の割合が前年度から横ばい状態であるのに対し、スマートフォンは8.4%上昇していることから、その差は縮んでいる。年齢階層別に見てみると、6～49歳の年齢階層ではスマートフォンの割合が携帯電話を上回っており、13～49歳の各年齢階層ではスマートフォンがパソコンを上回って保有者の割合が最も高くなっている状況にある。



図表1 主な情報通信機器の保有状況の推移 (個人)



図表2 年齢階層別主な情報通信機器の保有状況 (個人) (平成27年度末)

図表1・2 出典：総務省『平成27年通信利用動向調査』

このようにスマートフォンの普及率は若い世代を中心に進んでおり、その活用方法は電話やメールを始めとした連絡手段から、インターネットでの情報収集、多数のアプリを用いての日常生活への活用と多岐に渡っている。

ここでは、若い世代の代表例として学生がどのようにスマートフォンを活用しているのか、男女それぞれ一名ずつの例を紹介していく。

## 2. 私の大学生活中におけるスマートフォンの活用について

(教育学部生涯教育課程地域生活専攻 3年 飯山 智恵美)

私自身のスマートフォンの活用を振り返り、まず思い浮かんだのは、LINEやTwitterなどのSNSを使用して他人と交流していることである。電話やメール機能よりも、LINEで連絡。遠く離れた友人とTwitterでつながり、間接的に近況報告や、面白いことを共有している。その他に、標準装備である時計を目覚まし時計代わりにする、家計簿アプリや、メモ帳アプリなどで生活の記録をする、アルバムアプリを思い出整理に使用するなど、生活の細かいことは基本的にスマートフォンで事足りている印象がある。

自分の必要とする機能をアプリという形で簡単に機能追加ができることはとても便利だ。機能追加によって、こまごまとしたことができるようになったことはもちろんだが、このメリットは普段の学校生活を送る上でも役立っている。特に便利さを感じているものは、Officeアプリである。私は授業で使用することはもちろん、課外活動においてもOfficeを用いて資料を作成することが多い。スマートフォンにWordやOneDriveなど、5つのOfficeアプリをインストールしていることで、パソコンで作成した資料をスマートフォンでいつでも確認、訂正、共有などの作業ができる。スムーズに作業を進められるため、とても重宝している。

## 3. 大学生の学内におけるスマートフォンの活用について

(教育学部生涯教育課程地域生活専攻 3年 佐藤 成悟)

主要な連絡手段のひとつであり、情報収集の道具でもある。学業の助けにもなれば、暇つぶしもできる。2010年代に急速に普及したスマートフォン（以下、スマホ）は、今や大学生にとって生活必需品と言っても過言ではない。もちろん私も持っている。高校3年生の頃に「スマートフォンがないと大学生活が送れない、就職活動ができない」などという恐ろしい噂を聞いたため、慌てて購入したものだ。この噂の真偽はともかくとして、私もこのスマホをまあまあ活用しているはずだ。

さて、大学内でスマホを使って何をするかと聞かれれば、いっしょに思い浮かぶのは連絡をとること、特にコミュニケーションアプリ「LINE」の利用だろう。個人でアカウントを作成しそれをまとめたグループを作ることで、複数人に同時にメッセージを送ることができ、なおかつその伝達状況を一目で確認することができる。非常に便利な連絡ツールだが、この具体的な活用事例についてはもう一人の筆者が書いてくれると思うので割愛する。私が取り上げたいのは、情報検索についてだ。

例えば講義を受けている最中に、ふと調べたい言葉が登場したとする。おそらくこれは初歩的な疑問だ。授業終わりにわざわざ質問しに行くのも憚られる。そういったとき、スマホが威力を発揮する。ポケットから取り出して電源を入れ、検索ワードを入力すれば、すぐにでも解答にたどり着ける。図書館へ行って文献をあたると、パソコンを立ち上げるよりずっと速い（ただし講義中の使用は控えるべし）。信頼性は紙の本に及ばないが、ちょっとした調べもの程度ならスマホで十分だ。

また、日々のニュースを知るにもスマホは役に立つ。忙しい大学生の中にはニュースに関心はあれど、なかなか新聞など読む暇がない、新聞を取るお金もないし図書館まで読みに行く気力もないという人もいるのではないだろうか。そういった人は、新聞記事を読めるアプリを利用すると非常に便利だ。なにしろ待ち受け画面のアイコンに触れるだけで時事情報が手に入る。いつでもどこでもニュースが読めるというのは非常に便利である。さらに、五大紙のなかには、無料のスマホアプリで紙面レイアウトそのままに読めるものまである。ここまでくると慈善事業としか思えない。非常にありがたいことである。

さて、情報収集の道具としてのスマホについて、少しばかり書いてきた。だがまだまだ語れていないことばかりだ。さらに私は真に驚くべき使い方をみつけたが、それを書くには余白が狭すぎる。しかしここまで述べたことを、一大学生のスマホの活用方法として参考にしていただければ幸いである。

#### 4. 終わりに

学生二人の例を見てみると、両者ともに「アプリ」の大切さ・必要性を唱えている。現在、スマートフォンを購入すると初期状態から入っているアプリも多々ある。しかし、多くの学生はそれだけではなく、日々生み出される新しいアプリを試し、自分の生活に役立てている。このように学生生活の中でスマートフォンは無くしてはならないものになっている。学校教育においても ICT 教育の重要性が伝えられており、若い世代にとっては常に身近にあるものとなっている。だからこそ情報リテラシー教育と共に、情報通信機器から切り離れた体験を行う林間学校などが注目を集めている。身近にあるものだからこそ正しい知識を身につけなければならない。その一方で、その利便性に頼り切り、他の自然から生まれる楽しさを失わせることがあってはいけない。これからスマートフォンが普及するに従って、双方の考え方を大事にしていかなければならない、と考える。



文献 総務省『平成 27 年通信利用動向調査』

([http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01tsushin02\\_02000099.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin02_02000099.html))